

【事例より学ぶ】
合理的配慮の事例

大阪府立 富田林支援学校

朝の活動(着替え・定位活動)の場面で

・児童の実態

- ★自分の世界に入りやすく、今すべきことがわかりにくい
- ★大人が干渉しすぎるとパニックを起こす
- ★着替えなどの技術面の理解や操作性は高い

朝の活動(着替え・定位活動)での場面で

・配慮点

- ★朝の活動を活動順に細かく写真で示すことで、活動の流れがわかって一人でできる。
- ★活動が終わったら一枚ずつめくっていくことで、今すべきことがわかる。



衣服の整理整頓の場面で

- 生徒の実態

- ★ だいたいのは自分のできる

- ★ 手先が不器用

衣服の整理整頓の場面で

・配慮点

★手先が不器用でも、段ボールを順番に折り曲げていくだけできれいに畳むことができる。



着替えでの場面で

- ・児童の実態

- ★見ること、見続けることが難しい

- ★活動に対する趣旨の掴みにくさがある

- ★パターンの行動になりやすい

着替えでの場面で

・配慮点

- ★衣服の前にボタンをつけてボタンを目印にして正しく着ることができる。
- ★Tシャツ・ボタン・靴下ともに同じ目印なのでわかりやすい。



定位活動の場面で

- ・児童の実態

- ★フックに掛ける動作（認知面・操作性）の理解が難しい

- ★プットインが得意

定位活動の場面で

・配慮点

★フックを大きくし、紐がラミネートしたもので広がっているので掛けやすい。

★掛けるというよりは、得意なプットインを使った活動に近くしたためわかりやすい。



運動会の場面で

・児童の実態

★集中が短く、自分の世界に入りやすい

★集団行動が取りにくい

★言葉の理解は高く、切り替えにもなる

運動会の場面で

▪ 配慮点

★一人だけ立体的なコーンを使うことで、広い運動場でも目印となり、自分の場所に移動ができる。

★「緑のコーン」の言葉かけで切り替えとなった。



学習や給食の場面で

・児童の実態

- ★体幹が弱く、常に前傾姿勢で姿勢保持が難しい
- ★左右差があり、体のバランスが悪い
- ★右手から左手へなどのものの持ち替えなど手を使った活動が困難

学習や給食の場面で

▪ 配慮点

- ★姿勢の保持や両腕が机の上で保持できるような机の活用。
- ★よい姿勢での座位保持が保たれる。
- ★両腕が上がり、左右の手を使った活動がしやすい。



給食の場面で

・児童の実態

- ★すくう動作や弱手側でお皿を支える動作など手の発達が未熟
- ★握る動作が難しい
- ★「食べる」意欲は高い

給食の場面で

・配慮点

★滑り止めつきのすく
くいやすいお皿や
柄の太いスプーン
にすることで、
握りやすくなり、
自分でスプーンを
握り続けてすくっ
て食べられるよう
になった。



学習や給食の場面で

- ・児童の実態

- ★体幹が弱く、座位での姿勢が崩れやすい

学習や給食の場面で

・配慮点

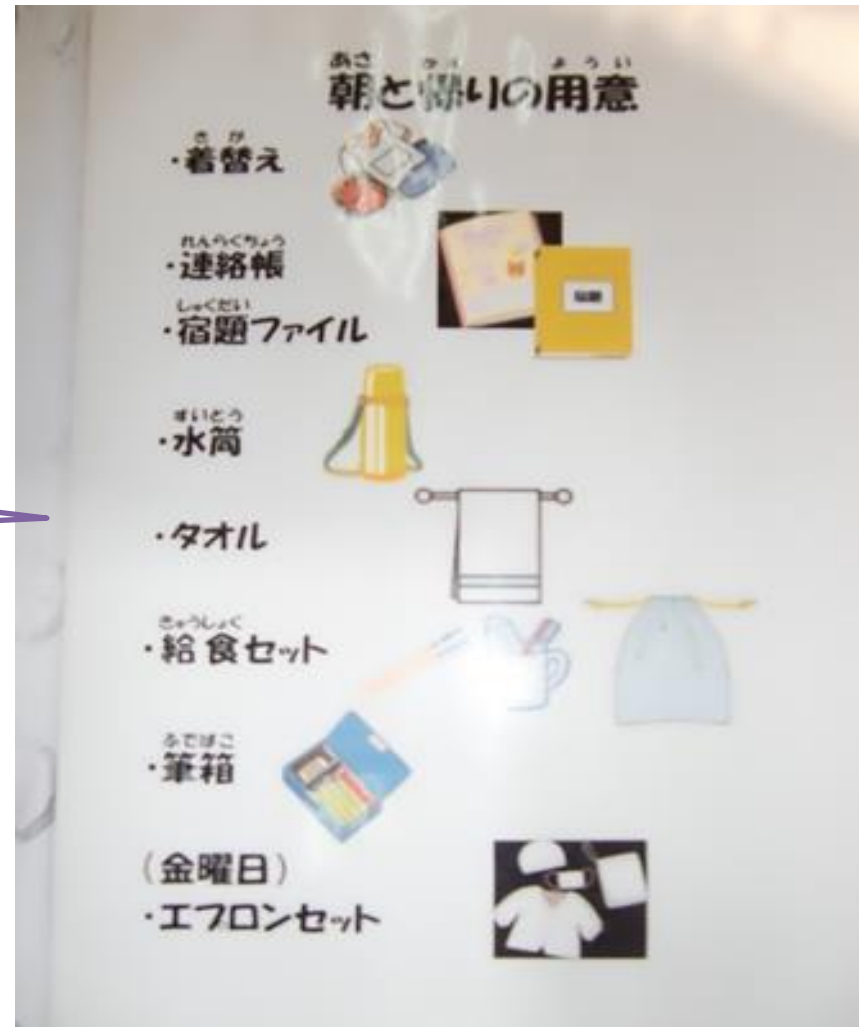
- ★椅子に滑り止めをつけ、足の置く位置をわかりやすく示す。
- ★足の置く位置を示すことで指示しやすい。



朝と帰りの用意の場面で

- 生徒の実態
- ★全体への提示では
わかりづらい

全体



朝と帰りの用意の場面で

・配慮点

★自分専用のホワイトボードを持つ

★ひとつずつ確認し、
できたらはずしていく



日常生活の中で

- 生徒の実態
- ★全体への掲示では
わかりにくい

全体

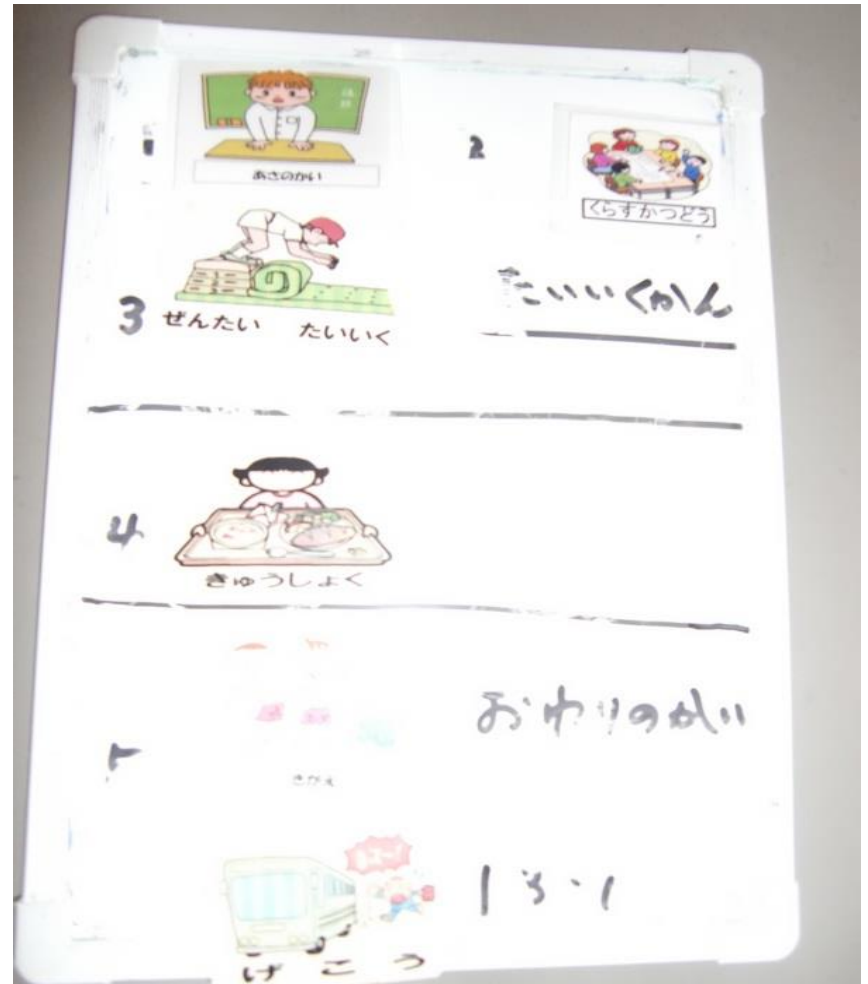


日常生活の中で

・配慮点

★自分専用のホワイトボードを持つ

★ひとつずつ確認し、
できたらはずしていく



日常生活の中で

- 生徒の実態
 - ★言葉が出ない

日常生活の中で

- 配慮点

★絵カードを携帯し
必要なときに提示する



日常生活の中で

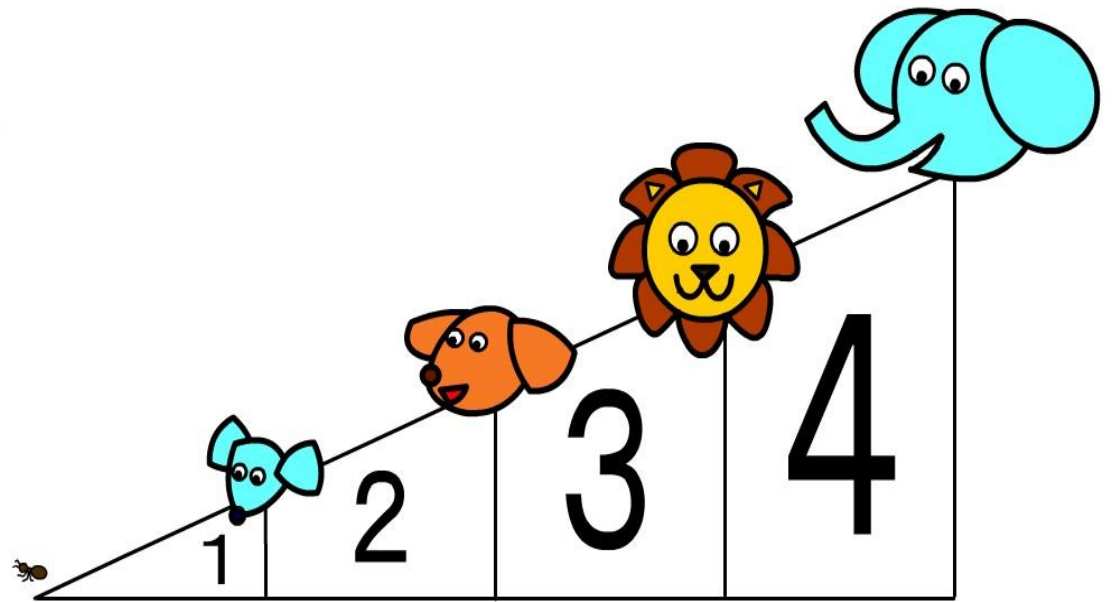
- 生徒の実態

- ★うれしい時、困った時に大声を出してしまう

日常生活の中で

- 配慮事項

★絵カードで示す



こえの おおきさを たしかめよう。